

農作業を省力化

ドローンで水稲除草剤を散布

5月25日(金)

滋賀県大津市上田上地区の圃場整備完了田で約2.5ヘクタールに、ドローンで除草剤を散布しました。

同地区で大規模面積での水稲栽培を行ってきた(農)ふぁーむ牧はこれまで、田植えを行うと同時に除草剤を散布し、作業の効率化を図るために水張りは最低限に行う程度とされてきました。



ドローンで水田の除草薬を散布しました。

しかし、同地区は砂壤土が多いことから水持ちが悪く、土壌が水面から露出することで農薬の効果が薄くなるなどの問題を抱えていました。また、滋賀県が取り組む化学合成農薬および化学肥料の使用量を慣行の5割以下に削減するなど環境こだわり米にも取り組んでおり、除草剤の散布にも制限があります。

そこで今回初めてドローンを用い、除草効果を高めるため田植えから5日後にしっかりと湛水した水田に液体薬剤の散布を試みました。

当JA南宮農経済センターの田中章吾センター長は、「経過観察をして、効果のほどを確かめたい」と期待を寄せています。